

高退協ニュース

第十一回

全退教学習・交流集会



第十一回全国学習・交流集
会が二九・三十日奈良で開か
れ、四五組中三七組、百
五名の参加者があった。
栗田全退教副会長の開会の辞
相場会長の挨拶、地元奈良退
教の歓迎挨拶、五條文化博物
館館長、石部正志氏の記念講
演「前方後円墳の謎にせまる
は古代史の謎に光をあてた古
都奈良に相応しい興味ある内
容でした。

井上事務局長の基調報告で
は医療、介護、雇用、年金と
いう社会保障面で負担増・給
付カットが計画され、すでに
十月から七十才以上の医療費
二割負担が始まっている。厳
しい不況、高い失業率、政・
官・業の不正・腐敗・癒着、
食品偽装問題など山積する中
で小泉政権は「改革」パホー
マンスで国民を幻惑している。

これらの厳しい情勢の中で本
集会のテーマ「全退教結成十
年の豊かな教訓に根ざし、新
たな発展を」元気のでる活動
と組織づくり」をめざし、仲
間をふやし、友達づくりを進
め、楽しみと運動の統一をは
かり、退職後も「人間らしく
堂々といき続けたい」という
願望を一つにすること、私た
ちの全退教活動をより活性化
させ、互いに知恵を出し合い、
学習と交流を深めることが大
切である。また、荒廃する学
校現場で苦闘する現職教員と
の交流と連携、現場の声をき
き、実情を知り、悩みを共有
し、先輩として知恵と力を発
揮することが求められている。
当面の重点課題として

- 一、仲間増やしのとりくみ
- 二、医療制度改善を元にもど
し、年金引き下げ・介護保
険の改善反対、有事関連法
の廃案
- 三、教育基本法「見直し」全
国一千万反対署名の達成に
全力で取り組む。

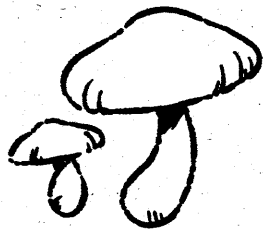
先の総会で決めた総会と学
習・交流集会の一本化論議も
深めてほしいとの提案があっ
た。

高知高退協
事務局
2002-11-12
No.119

高知県高等学校退職教職員協議会
高知市丸ノ内2丁目11-10
TEL 088-1822-16822
0165012111893

つづいて、長谷川全教副委
員長の挨拶を兼ねた特別報告
があり、管理教育の強化され
る中、「ゆとり」を生むはず
の学校現場が繁忙と過労、混
乱をもたらす、教師が苦闘し
ている現実、改憲の意図のも
とに進められている教育基本
法の見直しなどが報告された。
第二日は四分散会で基調報
告に基づいて組織拡大、活動
財政問題、現職との交流の問
題点などについて、それぞれ
の貴重な悩み、実践、体験が
報告され、学ぶところが多く
今後の活動に生かしてたいと
思います。

懇親会ではブロックごとの
近況報告があり、長野、徳島
知事選勝利の生々しい報告に
は一同、大いに励まされまし
た。
大会終了後、地元奈良退教
の皆様のボランティアガイドに
より奈良公園一帯を見学し、
古代のロマンに思いをはせま
した。



(古味)

高知市長選 善戦・健闘!

高退協は先に高知市在任の会
員にアピールしたように今回
の市長選は京都の首長選・生
活に直結する選挙戦であるこ
と、また、松尾氏は自治省の
天下り官僚、県庁時代にはヤ
ミ融資、多額の餞別で批判を
あび、医療、住基ネット、市
・町・村合併など国の悪政を
推進し、大型プロジェクトを
導入、多額の借金を作ってき
た。この現状を踏まえ、市政
の刷新を求めて、無所属の

「中根さち」候補を革新統一
候補として擁立する「民主市
政をつくるみんなの会」に加
入し、高退協共産党後援会と
タイアップして奮闘した。
松尾陣営は共産党を除く五党
オール与党体制、投票率三九
・二三%と歴代二位の低さは、
市民が「結果は決まっていた
からと足を運ばなかったため
松尾氏が無条件で再選された
わけではない。
高知市在任の会員の皆様の健
闘に感謝します。



新加入者紹介

福水信之さん

(宿毛高校小築紫分校)

ご加入を歓迎します

全退教四国ブロック交流会

- 香川県観音寺「かんぼの宿」
- とき 11月25日(月) 12時30分受付 観光
- 26日(火) 9時開会
- ところ 香川県観音寺「かんぼの宿」
- 記念講演 「一太郎やあい」の虚像と実像 (香川歴教協 石井雍大氏)
- 参加費 1万円
- ※参加希望者は 岡崎会長へ連絡下さい
- ☎781-0242 高知市横浜西町7-3
- ☎088-842-3747

※ 場所は無い。支配階級(資
本家・地主・政府)が革命
運動にたいして下す弾圧を
白色テロというが運動者が
外国に居ても同じであろう。
私の脳裏にあつて私にテロ
大国と言わしめたのはこん
な所である。

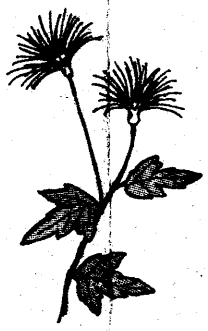
老声草

ある日の中国
語会話の時間に
「正是」(ちよ
うど...である
)を使って文章
を作れという問
題が出された。

そのとき私の口をついて出
たのは「美国正是恐怖大国」
だった。「恐怖」を知って
いる人はすくないだろうか
ら解説しておくと言音はカ
タカナで書くのだいたいコ
ンプ。中国語ではテロだ。
私の言ったのは「アメリカ
こそテロ大国だ」である。
先生も同様の八人(私は白
一点)もそうだそうだと
わんばかりに賛意を表して
いるが私は大変困っていた。
テロ大国の概念を聞かれる
と答えられないからである。
アメリカといえれば私の頭
を離れないものが一つある。
CIAだ。アセンテ政権時
期の陰謀だけでも許しがた
い。CIAは
されていたが九・一一後ブ
ッシュ大統領は暗殺権(?)
を与えたよう聞こえたが私
の聞き違いであつたのか
ならずもの国家呼ばわり
もいただけない。核攻撃も
含めて先制攻撃も辞さない
に到つてはもはや絶句。全
人類に対する挑戦でありこ
れ以上の脅迫はない。
ヨルダン川西岸とガザへ
のイスラエルの侵略はまぎ
れもない事実である。アラ
ブのテロがあると待ってま
したとばかりに侵略をくり
返し殺戮をほしいますに
する。また報復テロが起きる。
歴代のアメリカ力は明確には
反対せずイスラエル支持の
立場をとつて来た。これが
九・一一事件の直接的・間
接的原因の本質であろう。
そして報復戦争だ。これは
テロという犯罪行為を戦争
行為として認めるようなも
のだ。ビンラディンを捕捉
できなかったばかりかテロ
分子を世界に分散させてし
まった。先日平和な楽園
であるはずのバリ島で大規
模で悲惨なテロがあつた。
今や世界のどこにも安全な

寒東寺残日録
坪井 幹之

年来の課題「歩きへんろ」は、未完のままいつの間にか十年余が経っていたが、やっとな昨秋再開。四〇番・観自在寺から歩き始めたが、二日目大雨のため宇和島近くの務田で中止を余儀なくされた。今年になって「平成娘巡礼記」(文春新書)を読んで発奮、この十月二日、二年ぶりに足を踏み出した。今回は六日間十三カ所の札所を廻ることができた。総距離一四五K。最後は松山市の円明寺で打ち上げ。残るは伊予半国と讃岐である。あと二年を要するか。今回の総括をしてみよう。



俳句

「月見句会」 9月20日(金)
鏡川河畔

月光に満身濡れし我等かな
文机に月の御懐なる団子かな
吉本伸秋

月上る雲の通ひ路払ひつつ
白萩の揺れ月光のしたたれる
中内英明

待宵の月を映して鏡川
山の端を離るる小望月赤し
中内みち代
小机に秋草一盞月の供華
投網打つ孤舟の影や秋の暮れ
小笠原さちを
落鮎へ舟を操る片手棹
月の出を見むと東へ東へ

され、いたるところに標識があり道に迷うことなどはないが、樹長、鳥坂、真弓、高野、三坂など長大な峠道には悩まされる。初秋の暑さでビールが頭から離れない。夕餉にはお大師様との乾杯が続いた。宿であるが、民宿、へんろ宿、旅館、ホテルと泊まった。テフレの影響か安かった。飲み代を入れて六千から一万というところ。特筆したいのは打ち上げに泊まった道後温泉の「にぎたつ会館」の夕食である。そのメニューは宮中晩餐会クラスで、ミシユランの五つ星より美味であった。それで値段は二千五百円、領収書を見てびっくり。一日に歩いた距離は最長で三五Kほど。平均二〇数Kか。前述の本には一日六〇Kの話も出てくるが、脚力は昔の「お女中」にも及ばない。江戸時代の標準は男十里、女八里であったそう。脚力より体力の問題である。昼食後は足はなんとか動くが、疲労感で動きが鈍くなる。体力の保持を図らねば

12・8 平和の
MSJ に参加を

県母親運動連絡会が中心となり、毎年12月8日に「12・8 平和のつどい」の行事を持ってきています。今年も次の要領で集会がもたれます。高退協も実行委員会の加入団体として、行事の成功に向け取り組んでいます。会員の皆様のご参加を訴えます。

完歩は難しい歳となった。さて、札所での「参拝のお作法」であるが、全く簡単に済ませている。お寺に着いてするところはたった二つ。まず本堂で「般若心経」を唱える。と言っても覚えていないからふりがな付きの経本を読む。意味は何冊かの解説書で勉強したが頭には入っていない。団体のお遍路さんに負けるわけにはいかないから、声は大きい。次は大師堂で名号「南無大師遍照金剛」を三回唱える。以上で山門を後にする。納経は何回も廻って、高野山にも参詣しているのだから頂く。身支度も簡単。杖と蓑笠、雨具と着替一式。しかし山道を歩くので足には登山靴。荷が軽いので肩に痛みがきたことはない。

12月8日(日) 1時30分
四時

内容 記念講演
「私たちはどのような時代に生きていくのか」
戦争と平和を考える
講師 辺見 庸さん (作家)
会員券 千円
高退協会員の中心村晋一郎さんが、はじめての二人展を開催されました。



老・眼・鏡

「モリー先生との火曜日」
ALS (筋萎縮性側索硬化症) 進行して間違いなく死に至る残酷な神経疾患——それを患い残り少ない日々を生きている老教師モリーとかつての教え子ミッチが十六年ぶりに再会し、毎週火曜日に語り合った記録である。
生・死・家族・友情・・・あらゆることが話題にのぼる。息をするのさえ難しい状態の中で彼が語ってやまないのは「愛」である。「人は死んでも「愛」は残る。この世で触れた人達とのつながりの中に」

かつて肢体不自由児の学校にいた私は筋ジストロフィー等で限られた生命を生きる生徒達を教えた。徐々に動かなくなる身体・思春期に全介助になる悔しさ・未来に夢を描けない生徒達に「身体は動かなくても生きる意味はある。人の役に立つ事もできる」と説き、朝日訴訟の例まで出して励ました。しかし、「死」について率直に語ることはできなかった。

ある教え子の臨終の場に呼ばれた事もあったが「がんばったあの時なせ」「君は私にとって大切な生徒、絶対忘れたい」と手をにぎりしめて言えなかったのだらう。
「教師は単なる知識の伝達者であってはならない」と常に考えて生きてきたが、私の伝えたものは「挑戦」が中心だったのでは? と省りみられる。「生と死」「愛」を語るだけの思索と素直さが自分にあったのか? いまはあるのか? を考えさせられた一編である。

小島真子

高退協主催親睦囲碁大会

第四回親睦囲碁大会は9月29日に開かれた。参加者は高退協会員十二人非会員三人現職二人。一人は世話係にまわり丁度16人各人四局消化で終了。三位までは次の通り。

- 優勝 千葉 繁之 三段
- 二位 藤原 脩 四段
- 三位 田村 和夫 五段

案内
望年・芸能祭
(会員・家族作品展)

とき 12月9日(月)
5時~7時30分
ところ 高知城ホール

費用 五千円
作品を出品される方は
当日4時30分までに4階
ホールにご持参ください。
和 田 明 843-2713
中 川 正 路 822-6778
(12月2日までにご連絡を)